

犯罪の無い世の中へ

岡山県岡山市立芳泉中学校 1年 高見 紅慧



現在の日本では、犯罪が増えて凶悪化している。なぜこの世の中では犯罪が多いのか、考えてみる。

世の中は、暗いニュースにあふれている。私は、それらにより社会が暗い空気になったときに、犯罪が起こりやすいのではないかと考える。なぜなら、もし私が犯罪者なら、笑顔があふれて明るい雰囲気の中で悪いことをしたら目立つし、やりたくてもやりにくいと思うからだ。

もちろん、防犯カメラ、ブザーなどの防犯グッズはもし犯罪が起こったときにはすごく役立つだろう。

しかし私は、それ以前に犯罪が起きにくい社会にすることが大切だと思うのだ。

例えば、コンビニでの買い物など、わずかな時間でも必ず自転車を施錠したり、車内や自転車のカゴにある荷物を置いたままにしないようにするなど、少しは犯罪防止になるだろう。

犯罪を犯すとき、100パーセント憎しみや怒りなどの悪意で行動を起こす人はきっといない。

私は誰にだって善意はあると思う。

そして善意とは、すでに善い行いをしている人を見ると、自分の中でもどんどん大きくふくらんでいくものだと思う。

つまり、善意で行った善い行いは他の人の善意をふくらませ、防犯につながるのではないかというのが、私の意見だ。

また、他にも私が注目しているのは、いじめによる言葉の暴力だ。

なぐる、けるなどの暴力は誰が受けても同じように傷つく。

しかし、言葉の暴力の難しいところは、人によって、全然苦しくない人と、体への暴力以上に傷ついてしまう人などに分かれてしまうという点だ。

このくらいなら言っても大丈夫だろう、という安易な考えがいじめをひき起こす原因となっている。

いくら仲が良くても、自分と他人で違うところがあるのだと、私自身も自覚していきたい。

今まで親に、

「自分が言われて嫌なことは、人に言ってはいけないよ。」と、沢山言われてきた。しかしそれは、最低限守らなければいけないことだ。自分が傷つかない言葉で、相手を傷つけてしまうこともある。だから、相手の立場に立ち思いや

りをもって言葉を選ぶことが大切だと考える。

さて、これまでは悪意のないいじめについての話だったが、悪意のあるいじめはどうだろう。

例えば、いじめをすることを楽しく快感に思っている人もいる。それはきっと、自分より下がいる安心感から生まれる感情だろう。

身分制度がない今、私達は何で上下を決めているのだろう。

勉強や運動など、優劣のつく場はたくさんある。その中で、得意な分野一つを見て周りの人を判断する。そして、言葉遣いや態度を変える。

これはいけないことでありながら、競争社会では簡単に起こりうることだと思う。このような行動がいじめをひき起こす原因だと分かっているのに、なぜそうなるのだろうか。

私は、いじめを防ぐためには、常に視野を広く持ち周りを見つめることが大切だと思う。

広くするためには、想像力が必要である。

例えば、自分が得意なものを、苦手と感じている人がいたとする。そのとき、相手のことを下だと判断するのではなく、相手には自分と違う良さがあるのではないかと想像することが大切だ。その、人それぞれの良さを認めることができたなら、いじめが起きないだけでなく、高め合っていける素敵な関係になるだろう。

防犯という字は犯罪を防ぐ、と書く。しかし、今ある防犯グッズは防ぐというより対策というイメージがある。犯罪が起きたとき、どう対処していくかという考え方が、もう間違っているのではないかと私は思う。

いじめもそうだ。起きてからでは遅いのだ。

私は、今回深く考えたいじめを防ぐ行動を実際に試してみようと思う。それが今、中学生の私に出来ることだ。

ニュースで犯罪の報道がなくなるくらい、明るい国になればいいなと心から思う。

そんな理想に胸をはずませ、私は今日も思いやりのある、善い行動を心がける。